

さんぽくまちづくり通信

第 1 号
(創刊号)

発行 山北地区まちづくり協議会
発行日 平成 24 年 (2012 年) 5 月 1 日

事務局 村上市 山北支所 地域振興課 自治振興室 (住所) 〒959-3993 新潟県村上市府屋 232
(TEL) 0254-77-3111 (FAX) 0254-77-2217 (E-mail) s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp



週末百姓やってみ隊の活動から

豊かな実りを期待して種をまく

地域づくりの種も大きく育ちますように...

山北地区まちづくり協議会が設立しました

3月24日(土)さんぽく会館において、山北地区まちづくり協議会設立総会を開催しました。

集落、産業団体等の代表者からなる理事の皆さんと公募や集落からの推薦による委員の皆さん、合わせて95名の出席のもと、協議会の規約、役員、まちづくり計画、平成24年度事業計画・収支予算の4議案について、それぞれ原案どおり議決・承認いただきました。

山北地区まちづくり協議会を含め市内には



(大勢の皆さんの参加のもと開催された設立総会)

17の協議会が設立され、これからそれぞれの地域の特徴を活かした地域づくりが始まります。

山北地区は、民俗学者の宮本常一氏が「葡萄山北民俗探訪記」の中で「協働の風が強い」地域であると紹介しています。協働の原点である「お互い様の心」が強い地域であるといえるかもしれません。

平成24年度は、これまでの魅力ある集落づくり事業や集落公民館活動などの集落活動への支援を行いながら「協議会ができること」、「協議会がやるべきこと」の取り組みを具体的に検討していく予定です。

まちづくり協議会はまだスタートしたばかりの組織です。皆さん一人ひとりが笑顔で暮らし、住んでよかったと思える地域づくりに向けて、皆さんからご参加、ご協力をいただきながら取り組んでいきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

一人ひとりができることから

よろしくお願いします

山北地区まちづくり協議会

会長 佐藤 庄 平

この度、山北地区まちづくり協議会の会長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。



まちづくり協議会は、地域住民と行政が一緒に協力しながら地域づくりに取り組むための新たな組織です。

自分たちの地域をよく知っている住民が自ら考え、汗を流しながら地域づくりに取り組むことにより、地域への愛着が生まれます。

自分たちの身の丈にあわせ、一人ひとりができることから取り組み、住んでよかったと思える地域をみんなで作っていきましょう。

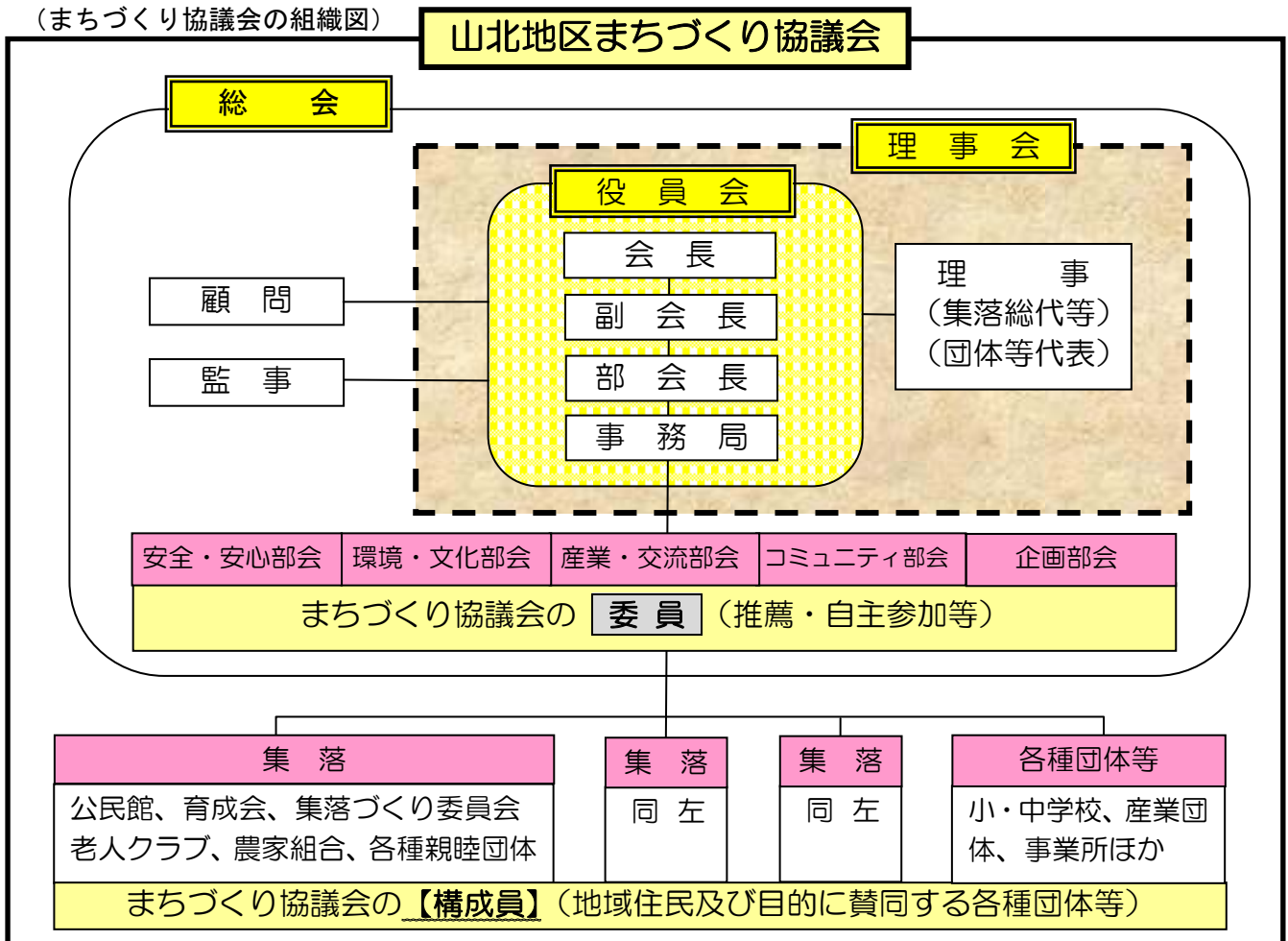
設立総会において役員が承認されました。任期は平成 25 年 3 月 31 日までの 2 年間で。よろしくお願いいたします。

- 会 長（1名）
佐藤 庄 平（小 俣）
- 副 会 長（2名）
加藤 英 人（大 毎）
斎藤 千 栄（下大蔵）
- 事務局 長（1名）
平 正 人（勝 木）
- 監 事（2名）
富 樫 勉（伊呉野）
渡 辺 等（脇 川）



山北地区に居住するすべての皆さんが構成員です

（まちづくり協議会の組織図）



集落の元気づくりを支援します

山北地区まちづくり協議会が行う「集落の元気づくり支援事業」を紹介します。

自らの手で自分たちの集落のために知恵を出し、汗を流し、集落が抱える課題の解決や集落の活性化に取り組む集落等を支援する事業です。支援の内容及び対象事業は以下のとおりです。申請方法など詳細は、協議会事務局（山北支所自治振興室）にご相談ください。

1 支援内容

- 補助対象経費の50%を事業支援金として助成します。（戸数20世帯未満の集落は70%）
（※1集落あたり年間50万円限度）
- イベント等の開催告知や外部へのPRなど、要請に応じて自治振興室で必要な支援を行います。
- 魅力ある集落づくり委員会、集落公民館や各種団体、また、複数集落で取り組む事業も対象です。

2 対象事業等

項目	事業概要	対象事業の例
1. 集落課題の解決と住民交流	集落の課題解決、住民同士のふれあいや集落の資源を活用した交流を促進する取り組み	盆踊りの充実、登山道（遊歩道）整備、四季のまつり、田植え・稲刈りツアーなど
2. 地域教育と子育て支援	子どもの見守り、子育ての支援を行う環境づくりのための取り組み	子育て講演会、子ども通学（園）見守り事業など
3. 健康と福祉の増進	住民の健康づくり、高齢者の生きがいづくり、福祉の増進のための取り組み	集落の茶の間、健康教室、高齢者支援（除雪）など
4. 防災と防犯	地震、自然災害への対策など住民が安心・安全に暮らすための取り組み	避難誘導看板設置、避難所マップ作成、防犯パトロールなど
5. 伝統文化の継承	集落や地域に伝わる芸能、食、生活文化などの保存・継承のための取り組み	後継者育成、郷土料理教室、集落の探訪、名所・旧跡マップ作成、集落史の発行など
6. 環境の保全・改善	集落内の環境改善や環境美化など、快適に暮らすための取り組み	ゴミ小屋整備、河川・海岸清掃、花の植栽、など
7. 産業振興	地域特産品の発掘や流通の促進など、産業の振興が期待できる取り組み	採れたて野菜市、特産品の試作など
8. 人材育成	次世代を担う人材を育成する取り組み	わんぱく交流会、子ども冬まつり、研修会への派遣など
9. その他	その他集落の活性化が期待できる取り組み	集落散策マップ作成、集落表示看板整備など

その他の事業の紹介

●集落の「元気づくり計画」策定支援事業

集落の将来像や具体的な取り組みを「元気づくり計画」として策定する集落に対して、計画策定支援金2万円を助成。また、自治振興室職員による計画づくりの支援も行います。

●集落公民館活動支援事業

集落公民館が行う既存事業を引き続き支援します。今年度は、従来の「集落公民館活動補助金」の積算根拠に準じて計算した金額と同額を支援します。平成25年度以降の支援方法については、協議会で別途検討します。

●地域づくり団体等活動支援事業

地域づくり団体等が、山北地区を対象とした地域活性化事業等を行う場合、事業支援金として対象経費の50%を支援します。
（※1団体20万円限度）

このほか、山北地区全体を対象とした地域の元気づくりのための事業を順次計画しています。事業の内容や計画の策定などについて、説明を希望する集落があればお伺いいたしますので、遠慮なくご連絡ください。

山北地区の地域づくりについて「みんなの声」

3月24日、さんぽく会館で山北地区のこれからの地域づくりを考える「地域づくり楽習会 in さんぽく」が開催されました。宮崎先生による基調講演と山北地区に関わりのある各年代4名の皆さんが行った意見発表の要旨をお知らせします。

【基調講演】

「協働のまちづくりと まちづくり協議会」

宮崎清先生

魅力ある集落づくり事業の推進をはじめ、20年以上山北地区



の地域づくりに関わりをもってこられた宮崎先生に、新たな地域づくり組織「まちづくり協議会」の設立を機に、これからの山北地区の地域づくりについてご講演をいただきました。(以下、講演要旨)

山北地区の「協働のまちづくり」は平成元年の「山北町観光開発基本計画」から既に始まっています。観光・地域づくりの原点を地域の光（資源）探しに求め、地域資源の再発見・再評価・共有化を図ることで「ないない尽くし」から「ありあり尽くし」へ意識の転換が行われました。山北の自然、おいしい水、受継がれる土着の祭…山北にはさまざまな光があるということに気づくことができたのです。

「協働」とは、ともに生きること、ともに繋がることでもあります。地域とともに生き、地域とともに繋がることこそが地域づくりの原点です。

【意見発表】

テーマ「私にとって住んでよかったと思える地域とは」

五十嵐舞緒さん

伊呉野集落出身、山北中学校2年生。意見発表のため同級生



全員にアンケートを実施しました。「山北の自慢は自然や人々の心の美しさだと感じ、それを守り広めたいと望んでいます。そのためには、一人ひとりが山北の良さを守る意識を持つことが“住み続けたい地域”“住んでよかったと思える地域”へ繋がるのではないかと思います。」

東海林直仁さん

中継集落出身で新潟大学農学部（3年）に在籍。将来は地元



に帰ってきて地域づくりに関わりたいそうです。「地元を離れて改めて自然や文化の誇らしさを実感しました。しかしこれらが当たり前と思われ、失われるのではないかと心配です。そこで、住民全員がどのような地域にしたいか考え、長期的な展望をみんなが共有することで、もっと魅力的な地域になると思います。」

川村悠樹さん

日本農業新聞社に勤務する社会人1年生。明治大学在籍中に



農村調査実習で山北地区を訪れ、山北ファンに。卒業論文は中継集落を題材に執筆しました。「山北を訪れた際、集落の方々が私を行事や生活に自然と溶け込ませてくれたことに地域の魅力を感じました。どの集落も一様の活性化ではなく、集落の規模や性格を考え、住む人が楽しいかどうかを大切にしてください。」

齋藤 基さん

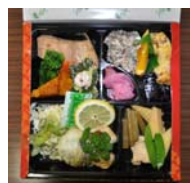
越沢集落出身、まちづくり協議会には委員として



参画するほか、日本国太鼓保存会や笹川流れマラソン大会役員など様々な地域活動に参加しています。「役員は使命感と言うものではなく、仲間とワイワイやった後のお酒が楽しみで続いています。お互いが頼りにし、応え合うことでみんなが気持ちよく暮らせると考える“ただ”のオッサンです。」

編集後記

皆さんのお話から「自然の美しさや伝統文化を守りたい」など、一人ひとりが抱いた想いを形にしていくことが“地域づくり”だと感じました。何かを築き上げるのは歳月がかかるからこそ、「楽しそうだな」を小さなことでも積み重ねていけたらいいなと思います。



設立祝賀会で提供された手作り料理